

1、2024年度 事業所方針

【グループホーム】

1. 地域の一員として自分らしいくらしを描き、いきいきとくらすことができるホームをめざす。
2. 支援者のスキルアップと働きやすい職場環境をめざす。
3. 亀岡福祉会ビジョン 2025 の実現に向けて取り組んでいく。

【ショートステイ／日中一時】

1. 障害のある人とその家族が、より豊かに、そしてあたりまえに生きるためのお手伝いができるようにする。
2. 関係機関と連携し、“その人にとって”を第一に考え支援する。
3. 利用される方が、安心安全快適に過ごせるような環境づくりに努める。
4. どんな障害の方も、しっかり受け止められる職員集団を目指す。

【ホームヘルプセンターゆめネット】

1. 障害のある人の「生活の質の向上」をめざす。
2. 「支援の質の向上」をめざし、多様なニーズに応えていける職員集団をめざす。
3. 地域の様々な事業所や行政と連携をしながら、地域福祉の向上をめざす。

2、利用者・職員状況

【グループホーム】

- ・入居者 41 名。平均年齢 56.3 歳（最年少 24 歳／最高齢 81 歳）。40 歳以上 38 名。
- ・障害の重度化や高齢化に伴う疾病、病気の発見など、変化する自身の身体やできにくくなってきていることに向き合いながらくらしおられるメンバーを日々支えてきた。家族の高齢化により、週末帰宅できないメンバーも増えてきており、人手不足ではあるが職員配置を工夫しながら支援を組み立てている。
- ・職員については、年齢層が高く、家族の介護や自身の疾病により休職や退職をされる方が増えてきた。そのようななかで、支援のスキルアップや風通しのよい職場づくりをどのようにしていくか頭を悩ませている。
- ・年間を通して職員の退職がたくさんあり、グループホームの職員配置がきびしい。

【ショートステイ／日中一時】

- ・ショートステイ：3 名（10 代 1 名、30 代 2 名）と契約
- ・利用再開：1 名（法人内日中事業所利用者）
- ・ショートステイのニーズは高く、児童からの利用希望の依頼が増えてきている。

【ホームヘルプセンターゆめネット】

- ・3 名と契約。（身体（20 代）、ガイドヘルプ（20 代）（30 代））
- ・ガイドヘルプ中に利用者（40 代男性）の事故（怪我）の発生（4 月）
- ・利用者 1 名の利用終了（80 代）
- ・行動援護対象の利用者が、調査で対象から外れ、再度対象になるというケースがあった。
- ・スキルアップ、資格取得の促進として実務者研修 1 名、強度行動障害支援者養成研修（基礎）1 名、（応用）1 名が受講

3、2024年度の実践内容と成果

【グループホーム】

- ・長引く戦争などの影響から、物価高騰が続いている。開所当初から家賃の改正は行っていなかったが、やむなく5月から2000円の値上げを実施した。お米の値上がり幅が大きくグループホームの食材費に大きな影響を及ぼしている。
- ・社会保障は切り下げられるばかりで、障害のある人がくらししていくには大変な世の中だ。少しでも豊かなくらしが送れるように日々試行錯誤しながらとりくみを進めている。
- ・8月に75歳のメンバーが逝去された。腸閉塞、関節性リウマチなどの病気と闘いながら作業所、デイサービス、グループホームでの生活を送ってこられた。最後は、病院で誤嚥性肺炎により亡くなった。障害分野、介護保険、医療と連携し、その人の「生きること」を支えてきた。この事例をとおして、高齢期をどのように生き抜くか、そのための支援について改めて考えていきたいと思う。
- ・チャレンジのとりくみとして、夏と冬にゆめネットガイドヘルプを利用した外出とりくみを行った。全ホームで実施することはできなかったが、法人全体で支援体制をとり、実施できたグループホームのメンバーからは「楽しかった」「また行きたい」の声もきかれ、生活をともにするメンバーとのいつもとは違った楽しい時間をつくることができた。
- ・自活型ホームとして開設したホームきらきらでのくらしを支える支援については「どこまで、何を支援すればいいのか」と、支援に入っている職員から悩みが聞かれる。先進的な事例にも学びながら、ひとり一人のくらしが、より自分らしく営めるような支援を見出していきたい。
- ・本人の高齢化、ご家族の高齢化により、今までの家族関係が変化してきている人たちも多くみられるようになってきた、本人がより安心してグループホームでくらすことができる環境を整えることはもちろん、ご家族も含めたまるごとの支援が必要なケースもでてきているので、さまざまな関係の人たちと連携しながら、グループホームとしてできることを考えていきたい。

【ショートステイ／日中一時】

- ・備品の購入、部屋の構造化など、安全な環境づくりに努めてきた。
- ・ショートステイの新規の利用希望と利用の再開希望に応えてきた。
- ・地域生活支援拠点事業の一事業所として担当者会議に参加をし、圏域の事業所とともに行政に現状の報告を行った。
- ・第二かめおかショートステイ（あゆみ荘内）にて、8月初旬にグループホーム入居者の新型コロナウイルス罹患がわかり、ご家族、利用者ご本人と相談をし、場所の変更を行い、可能な限り利用中止とせず、利用をできる工夫をしてきた。
- ・急なご依頼にも可能な限り調整を行い、ニーズに応えてきた。

【ホームヘルプセンターゆめネット】

- ・急な利用のご依頼（ご家庭の用事、他事業所閉所に伴う利用希望など）にも可能な限り対応をし、利用者やそのご家族のニーズに応えてきた。
- ・特定の利用者に固定の職員（ヘルパー）しか支援に入ることができない状況の改善のため、業務標準書の作成と変化に合わせてブラッシュアップに取り組んでいる。
- ・年度始めの4月にガイドヘルプ中に事故が発生をした。改めて支援や外出時の行程の振り返り、年齢を重ねての心身の変化に焦点を当てるなど、事象を通して支援のあり方、今後のとりくみの確認を進めた（無理のない計画の作成、利用者の心身の変化の把握、丁寧な利用に向けての打ち合わせなど）。またヒヤリハットも意識的に記入を行い、会議にて共有、確認を行って

きた。

- ・利用者の高齢化と障害の重度化、そのご家族の高齢化の中で、些細な変化に気付き、相談支援事業所や日中事業所に状況の報告、共有を進めてきた。

- ・9月頃から入院をされていた利用者の方が、12月をもって施設入所（介護保険）をされるため、契約終了となった。80代後半まで一人ぐらしで多くのヘルパー事業所が入り生活を営めたことは、大きな成果であり、その一事業所として関わったことを今後の支援に活かしていく。

4、来年度の課題とそれに対する取り組むべき実践内容

【グループホーム】

- 壮年期～高齢期に向かうメンバーの体調が不安定になることが増えている。些細な体調の変化を見逃さず職員同士、家族、医療と連携していきたい。

- 火災、台風、地震などの災害に対応できるように、消火、避難訓練を行う。また感染症などについても、何かあったときに素早く対応できるよう、学習や備品の準備などを行う。

- 統一した支援ができるよう、メンバーの基本情報、ホームの業務については、業務指示書の整備を行う。また、業務日誌の活用と情報共有を徹底して行い、職員間の連携強化や生活の質の向上を目指す。

- 自分らしいくらしを描き、いきいきとくらすことができる要素のひとつとして、ひとり一人の服薬、薬の塗布などの医療ケアについてその目的と意義を共有し、支援に活かす。

- 一人職場だが、チームプレーが不可欠である。常日頃から顔を合わす機会を増やし、コミュニケーションを大切にし、何でも言い合える職員集団をめざす。

- 引き続き、多様なくらしについて研修、見学を行う。

- すみれ・つばさ荘の合築ホーム建設にむけて、入居者希望アンケートやくらしの実態調査を行う。

【ショートステイ／日中一時】

- 引き続き安全な環境づくりを行い、安心な場となるように努める。

- ・感染予防対策（手洗い、消毒、部屋の換気など）を引き続き、周知徹底していく。

- ・相談支援事業所、ご家族、日中事業所など関係機関と連携をしていく。

- 職員集団づくり、スキルアップにとりくみます。

- ・利用される方より良い支援につながるよう学び（他事業所の見学や交流など）を深める。

- ・横のつながりを強め、意思統一ができるよう担当者会議を開催する。

- 地域の社会資源の一つとして、ニーズに応えられるよう努める。

- ・人財の確保を考えるとともに、法人全体での仕組みづくりを考えていく。

- ・障害の重度化により医療的ケアが必要な利用者をどのように受け止めていくか。看護師が常駐していない中、ご家族や医療など関係機関と連携、相談しながらその人にとって第一に考え、より良い支援につながるよう考えていく。

- ・亀岡市の地域生活支援拠点事業の一員としての役割を担っていく。

【ホームヘルプセンターゆめネット】

- 個々の多種多様なニーズに応えられる支援にとりくみます。

- ・一人ひとりの多様な生活を支えるため「傾聴」「対話」を大切にします。

- 職員集団づくりとスキルアップにとりくみます。

- ・業務標準書の作成を進め、誰でも支援に入ることができるしくみをめざします。

・学び（研修や他事業所との交流など）を深め、運営や支援につなげる。

○ビジョンの実現、地域福祉の向上へとりくむ。

・日々の支援で見てきた地域の課題を行政に声をあげ、地域福祉の向上をめざす。

・将来の事業の継続、発展のため、他事業所との交流を行い、学び、活かす取り組みを進める。